

# 令和4年度入団式を開催



入団式であいさつをする関市長



令和四年四月十日(日)入団式を開催しました。  
令和三年五月から令和四年四月までに入団した団員二十一  
名で当日は十八名の新人団員が参加しました。  
入団式では、法令や災害対応の講習の後、関大牟田市  
長 光田市議会議長、松尾総務委員長をお迎えしての式  
典、その後訓練が実施されました。

当日は九時から法令や災害現場での活動に関する研修の後、式典が開催。  
式典では、上内分団の平田麗央奈  
団員による宣誓の後、消防長の式辞、  
市長、議長からのご祝辞を賜り式典  
は終了しました。  
式典終了後は、参加者全員での記念  
撮影を行いました。



第16号

2022年4月発行

発行:大牟田市消防団予防委員会

## 山林火災防ぎよ訓練を実施

令和四年三月六日、大字岬の黒崎山、黒崎第二公園  
北側一帯において、山林火災署・団防ぎよ訓練を行  
いました。  
春季火災予防運動の一環の行事で、当日は消防団  
から車両八台と四十五名の団員が参加しました。



## 参加者の声

明治分団 班長  
河口 真一

今回の訓練で良かった点  
は合同訓練でしたが他の分  
団ともコミュニケーション  
がとれてホース延長など、  
上手になりました。

団員同士の士気も高まっ  
たと思いますし、ポンプ車  
のポンプ操作なども再確認  
が出来、効率の良い動作が  
学べました。  
悪かった点は、指差呼称  
の一連の動作を忘れていま  
した。  
どの様な情報がいつ、誰



現場本部



放水風景



揚水風景

に対して必要か考えさせら  
れました。  
今回コロナ禍の中での訓  
練でしたが、改めてチーム  
ワークの大切さや、指差呼  
称の大切さを学び積極的に  
実践していきたいと思いま  
した。

大正分団 班長  
片島 幸一

令和四年三月六日(日)  
黒崎公園内において署団合  
同での山林火災防ぎよ訓練  
が実施されました。訓練  
現場は、自然水利(溜池)  
からポンプ車、可搬ポンプ  
による中継送水を行い、山

頂の火点に放水する内容で  
した。  
今回、私たちの分団は池  
の水を揚水する元ポンプと  
して6名参加しました。  
コロナウイルス感染防止  
の影響もあり、最近訓練  
等実施されていなかったこ  
とから、久しぶりの訓練で  
あり、皆緊張感を持って訓  
練に挑みました。  
訓練前のミーティングで、  
池周辺での作業を行うこと  
から、安全確保のためライ  
フジャケット、安全帯の着  
用や転落時の対応のため梯  
子、スローバグ、救命浮  
環の準備について確認を行  
いました。通常作業時にお  
いても消火にはスピードを  
求められるものの、慌てず

周囲の状況を判断し準備す  
ることが自分の身を守るた  
めにも必要だと思いました。  
訓練実施広報の後、定刻  
の九時半に集合場所より出  
動し溜池の水が揚水できる  
位置に着き安全確保、揚水、  
ホース展張、送水先のポン  
プ車への接続を行い送水開  
始しました。  
無線を通じて送水先の通  
信内容を聞き状況を把握し、  
圧力調整の準備をしていま  
した。圧力調整の要求があつ  
た時には、こちらの圧力計  
数値と相手の要求に比べら  
れているかの確認を送水先  
ポンプ車の機関員と無線に  
て交わすことにより状況を  
共有できるように努めまし  
た。

# 新入団員の声



玉川分団 団員  
幸野 一名

私は、消防団の一員としての自覚を持ち、先輩方の指導の下、訓練を積み重ね一日も早く一人前の消防団員となり、私たちの住む町が安全で安心して暮らせる町になるよう消防団活動に精励したいと思っています。



上内分団 団員  
境 海斗

上内で火災があった時、上内分団と他の分団が協力して消火活動している姿を見て自分も入団してみたいと思いました。いち早く現場の作業に慣れみなさんの力になれるように頑張ります。



女性分団 団員  
藤岡 恵子

今回私が消防団に入ったきっかけは、同じ職場の先輩のすすめがあり、また職場のイベントに女性消防団の方々に協力頂いていることもあり、少しでも恩返しできればと思い入団しました。それまでは女性消防団の存在すら知らずにいました。すべてにおいて、初めての事で何も分からず体力的にも不安だらけで、自分に何が出来たのか分かりませんが、少しでも役に立てれば良いかなと思います。



平原分団 団員  
堤 正則

私は生まれてから大学を卒業するまで、大牟田の通町で過ごしました。その時に地域の人達に支えられ見守られて過ごしてきました。大学卒業後、大牟田を離れ、長崎と広島で過ごしましたが、子供が生まれたのを機に大牟田に帰ってきました。

その時も地域の人は今までと変わらず、いやそれ以上に私たちに優しく接してくれました。その恩に答えるために、何か活動したいと考えていた時に消防団の話聞き、入団を決意しました。私は消防団員として様々な活動を通じて、消防団員としての自覚を持ち、先輩方の指導の下、少しでも早く活動内容を把握し、自分達の住む町がこれからも安全で安心して暮らせる町になるよう全力で消防活動に精励したいと思っています。



女性分団 団員  
平田 麗央奈

令和2年の豪雨で自宅が崖崩れで半壊し公民館で避難生活をしていた際、上内分団が食糧や毛布等を届けてくれ、昼夜問わず救助活動をしている姿を見て、いつか私も地域の為に何か出来る事をし



倉永分団 団員  
有富 優太

知人に声をかけていただき入団いたしました。地元の方や団員の方々と交流ができ入団してよかったと思いました。色々な活動に積極的に参加し、頼りにされるようながんばっていききたいと思っています。



手鎌分団 団員  
高崎 博幸

今回消防団入団は、『消防団にみんな入ろうか』社長の一言でした。私たちの職場は、地元での公共事業に携わる仕事を行っております。地域社会との関わりが多く、仕事を進める上でここでの関係性がとても重要です。地元に着した仕事に関わる中で、地域貢献、社会貢献活動と言葉を会社の中でよく聞くようになり、それを形にした答えが会社全員参加での消防団入団となりました。

初めてポンプ点検に参加し服装、礼式、基本動作の指導を受けました。車庫内での設備、装備品等の説明を受けた後に実際に現場に行ってみました。正直なところ、ほぼほぼ上手いかならないことばかりでした。色々覚えていく事ばかりですが、一つ一つ覚えて皆さんと共に活動していきたいと思っています。



上内分団 団員  
中河原 旺耀

私が消防団に入ろうと思ったのは父の影響です。



上内分団 団員  
西山 勝太郎

私の入団理由は村や町の方々のために入団しました。これからは地域のためにもがんばっていきこうと思います。

そのために普段から気を配り、体に気をつけながら仕事や訓練をがんばっていきこうと思います。



上内分団 団員  
西山 義朗

令和2年7月豪雨を体験して、地域の為、行動したいと考えた。近所の人と協力し、災害防犯に努めていきたい。火事の時、各地の分団の方が他の担当地域にも出動しているのを見て、想像以上に協力体制が出来ているのを実感した。



上内分団 団員  
石塚 翔太

知り合いの紹介で入りました。地元の人と協力して災



女性分団 団員  
林 友理

害を未然に防げるようにがんばりたい。

今回消防団への加入のきっかけは、職場の「地元の元氣プロジェクト」の1つとして、地域の皆さんの役に立てれば良いなと思い入団しました。初めての経験なので分からない事や不安な事もありますが、頑張りたいと思います。そしてこの経験を生かして自分の成長に繋げていければと思うし、女性の方でもこういう活動をされる方がもっと増えていければどんな地域も活性化していくと思います。



女性分団 団員  
中原 絵梨香

大牟田地域との関わり、そして少しでも地域貢献となるようにこの度は加入させて頂きました。初めての事で分からない事ばかりですが、何かお役に立てる事があれば、微力ながら勤めていきたいと思っています。

消防団という男性のイメージが強く、女性もいらつしやるとお伺いしてとても驚きましたが、男女関係なく地域の安全を守る事は、子供たちにも後ろ姿として見せていく事が出来るので一つでも学べる事は吸収し、人生勉強として糧にしていきたいと思っています。



大正分団 団員  
有馬 辰紀

きっかけは、分団員からのお誘いです。入団の



大正分団 団員  
嘉悦 隆博

今回私が消防団に入団させて頂いたのは、地域の皆さまの少しでもお力になればと思い、入団させて頂きました。火事や水害、その他いろんな現場で力になればと思います。



羽山台分団 団員  
立石 健太

四月十日には消防団入団式があり、振り返って感じたことは何をするにも初めてで緊張しました。当日は20名ほどの新入団員が出席し来賓の大牟田市長・議長等から激励の言葉を頂き感激しました。

新入団員訓練では、普段行わない基本動作やホース展開、結合の訓練などを行いました。中々思うようにいかず苦戦しました。

やはりお手本となる分団長の動作は、機敏で正確かつ確実にされており驚きました。

先輩団員にご指導頂きながら地域の安全・安心を守っていかねければと決意しました。

